

4 学科による学生生活の違い

清水 朋音

はじめに

他学科の友人の話を聞いてみると、彼らは同じ社会学部でも私とは異なる大学生活を送っているようだ。学科の違いは私達の学生生活に、何らかの影響を及ぼすのだろうか。『社会学部卒業生アンケート』を用いて、大学生活において、学科により異なっている点、あるいは共通している点をみていきたいと思う。

4.1 入学前

学生生活における学科ごとの違いを分析する前に、大学へ入学する以前、学科を選んだ時点でもなんらかの違いがあるのかどうか、分析してみたい。そこで、学科と志望順位、現役・浪人の別、入試形態、高校3年の頃の成績、蔵書数、家の経済状況の6通りクロス集計表を出してみる。

表1 学科と志望順位のクロス表

	第一志望	第一志望以外 (国公立志望)	第一志望以外 (私立他大志望)	合計
社会学	45 63.4%	17 23.9%	9 12.7%	71 100.0%
社会福祉学	68 79.1%	13 15.1%	5 5.8%	86 100.0%
メディア学	50 74.6%	11 16.4%	6 9.0%	67 100.0%
産業関係学	48 72.7%	10 15.2%	8 12.1%	66 100.0%
教育文化学	47 59.5%	28 35.4%	4 5.1%	79 100.0%
合計	258 69.9%	79 21.4%	32 8.7%	369 100.0%

$p=0.019$

社会福祉学科では8割近くの人が第一志望である。一方、国公立大学の多くに教育系の学部があるためか教育文化学科では国公立大学を第一志望にしている人が多い。社会学科と産業関係学科では、私立他大志望が1割を超えている。

表 2 学科と現役・浪人の別のクロス表

	現役	浪人	その他(編入, 社会人など)	合計
社会学	55 77.5%	14 19.7%	2 2.8%	71 100.0%
社会福祉学	63 72.4%	17 19.5%	7 8.0%	87 100.0%
メディア学	49 73.1%	15 22.4%	3 4.5%	67 100.0%
産業関係学	47 71.2%	18 27.3%	1 1.5%	66 100.0%
教育文化学	54 68.4%	22 27.8%	3 3.8%	79 100.0%
合計	268 72.4%	86 23.2%	16 4.3%	370 100.0%

p=.541

社会福祉学科では編入・社会人が多少多く、また産業関係学科と教育文化学科に若干浪人が多い。しかし有意確率が 0.541 であり、学科と現役・浪人の別に関連があるとはいえない。

表 3 学科と入試の種類別のクロス表

	一般/センター試 験利用入試	推薦(指定校・ 公募)/AO入試	内部校等からの 推薦入試	その他	合計
社会学	44 62.9%	5 7.1%	21 30.0%	0 0.0%	70 100.0%
社会福祉学	48 55.2%	10 11.5%	23 26.4%	6 6.9%	87 100.0%
メディア学	39 58.2%	6 9.0%	16 23.9%	6 9.0%	67 100.0%
産業関係学	49 74.2%	5 7.6%	11 16.7%	1 1.5%	66 100.0%
教育文化学	55 69.6%	11 13.9%	9 11.4%	4 5.1%	79 100.0%
合計	235 63.7%	37 10.0%	80 21.7%	17 4.6%	369 100.0%

p=.042

入試の種類が学科のみによって決定されているとは考えにくい。そこで、まず入試の種類について分析してみる。

表 4 志望順位と入試の種類のカロス表

	一般/センター試験 利用入試	推薦(指定校・公募)/ AO入試	内部校等からの 推薦入試	その他	合計
第一志望	131 51.0%	36 14.0%	79 30.7%	11 4.3%	257 100.0%
第一志望以外 (国公立志望)	76 96.2%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.5%	79 100.0%
第一志望以外(私立 他大志望)	27 84.4%	1 3.1%	0 0.0%	4 12.5%	32 100.0%
合計	234 63.6%	37 10.1%	80 21.7%	17 4.6%	368 100.0%

p=.000

表 4 より、入試の種類には志望順位が大きく関係する。推薦入試が利用されるのは、ほぼ第一志望の場合のみである。

表 5 性別と入試の種類のカロス表

	一般入試/センター試験 利用入試	推薦(指定校・公募)/ AO入試	内部校等からの 推薦入試	その他	合計
男性	113 74.3%	13 8.6%	20 13.2%	6 3.9%	152 100.0%
女性	119 55.9%	24 11.3%	59 27.7%	11 5.2%	213 100.0%
合計	232 63.6%	37 10.1%	79 21.6%	17 4.7%	365 100.0%

p=.002

表 6 学科と男女比

	男性	女性	合計
社会学	32 45.7%	38 54.3%	70 100.0%
社会福祉学	20 23.0%	67 77.0%	87 100.0%
メディア学	28 41.2%	40 58.8%	68 100.0%
産業関係学	46 70.8%	19 29.2%	65 100.0%
教育文化学	27 34.2%	52 65.8%	79 100.0%
合計	153 41.5%	216 58.5%	369 100.0%

また表 5 で入試の種類と性別との関係をみると、男子学生は女子学生よりも一般入試/センター利用入試を多く利用する傾向があることが分かる。

よって、社会福祉学科で 4 割近い学生が推薦入試を利用し入学しているのは、この学科

が 5 学科の中で第一志望者も、女子学生も最も多いためであると考えられる。反対に男女比 7:3 と男子学生が最も多い産業関係学科では、一般入試/センター利用入試の学生が最も多くなっている。そして教育文化学科は男子学生の割合が社会学科・メディア学科よりも低いにもかかわらず、産業関係学科に次いで一般入試/センター試験利用入試選択者が多い。これは、表 1 から分かる通り教育文化学科では第二志望以下の学生が 5 学科の中で最も多かったためだと考えられる。

表 7 学科と高校 3 年の頃の成績のクロス表

	上のほう	中の上	中ぐらい	中の下	下のほう	合計
社会学	15 21.1%	25 35.2%	13 18.3%	9 12.7%	9 12.7%	71 100.0%
社会福祉学	12 13.8%	30 34.5%	21 24.1%	15 17.2%	9 10.3%	87 100.0%
メディア学	22 33.8%	18 27.7%	12 18.5%	3 4.6%	10 15.4%	65 100.0%
産業関係学	7 10.8%	17 26.2%	18 27.7%	8 12.3%	15 23.1%	65 100.0%
教育文化学	22 27.8%	19 24.1%	20 25.3%	6 7.6%	12 15.2%	79 100.0%
合計	78 21.3%	109 29.7%	84 22.9%	41 11.2%	55 15.0%	367 100.0%

p=.034

メディア学科は高校の頃の成績が「上のほう」と答える人が多い。それ以外の学科は「中の上」が多いが、産業関係学科はやや「中ぐらい」「下のほう」に傾いており、教育文化学科は逆に「上のほう」「中の上」「中ぐらい」に分布している。

表 8 学科と高校 3 年の頃の蔵書数のクロス表

	10冊以下	11冊~50冊	51冊~100冊	101冊~200冊	201冊~500冊	501冊以上	合計
社会学	6 8.5%	19 26.8%	15 21.1%	8 11.3%	18 25.4%	5 7.0%	71 100.0%
社会福祉学	20 23.0%	22 25.3%	17 19.5%	18 20.7%	8 9.2%	2 2.3%	87 100.0%
メディア学	6 9.0%	20 29.9%	11 16.4%	14 20.9%	10 14.9%	6 9.0%	67 100.0%
産業関係学	14 21.2%	12 18.2%	17 25.8%	13 19.7%	9 13.6%	1 1.5%	66 100.0%
教育文化学	5 6.3%	17 21.5%	27 34.2%	15 19.0%	11 13.9%	4 5.1%	79 100.0%
合計	51 13.8%	90 24.3%	87 23.5%	68 18.4%	56 15.1%	18 4.9%	370 100.0%

p=.010

社会学科の人は 3 割以上が 200 冊以上の蔵書をもっており、10 冊以下の人も 8.5 パーセントと少なめである。一方社会福祉学科は 50 冊以下の人がほぼ半数である。

社会学科、社会福祉学科、メディア学科では 11～50 冊の蔵書をもつ人が最も多いが、産業関係学科と教育文化学科では 51～100 冊の蔵書をもつ人が最も多い。

表 9 学科と高校 3 年の頃の経済状況のクロス表

	豊か	やや豊か	ふつう	やや貧しい	貧しい	合計
社会学	12 16.9%	30 42.3%	24 33.8%	3 4.2%	2 2.8%	71 100.0%
社会福祉学	10 11.6%	27 31.4%	40 46.5%	7 8.1%	2 2.3%	86 100.0%
メディア学	7 10.4%	20 29.9%	31 46.3%	6 9.0%	3 4.5%	67 100.0%
産業関係学	4 6.1%	23 34.8%	32 48.5%	4 6.1%	3 4.5%	66 100.0%
教育文化学	11 13.9%	28 35.4%	32 40.5%	8 10.1%	0 0.0%	79 100.0%
合計	44 11.9%	128 34.7%	159 43.1%	28 7.6%	10 2.7%	369 100.0%

p>.5

上のクロス表より、多少社会学科が裕福な傾向があるが、統計的に有意な関連がみられないため、家の経済状況と学科の選択は関連しないと考えられる。

4.2 授業への取り組み方

学科によって学ぶ内容が異なる以上、学科ごとに授業への取り組みの度合いも大きく変わってくるのが予想できる。そこで

- a)授業内容について教員に質問する
- b)授業中のディスカッションに参加する
- c)授業の予習や復習をする
- d)ゼミの発表のために時間をかけて準備する
- e)期末テストやレポートの準備をきちんとする
- f)板書されていない内容もノートに書き写す

の 6 項目をそれぞれ「あてはまる」を 1 点、「ややあてはまる」を 2 点、「あまりあてはまらない」を 3 点、「あてはまらない」4 点と点数化した。次に a)～f)の各値を合計して、6～9 点を「積極的」、10～14 点を「やや積極的」、15～19 点を「やや消極的」、20～24 点を「消極的」とする合成変数（下の表 10 参照）を作成した。学科とこの合成変数のクロス表により各学科の授業への取り組み方を分析する。

表 10 学科と授業への取り組み方のクロス表

	積極的	やや積極的	やや消極的	消極的	合計
社会学	2 2.9%	41 58.6%	22 31.4%	5 7.1%	70 100.0%
社会福祉学	5 6.0%	58 69.0%	19 22.6%	2 2.4%	84 100.0%
メディア学	13 19.4%	41 61.2%	12 17.9%	1 1.5%	67 100.0%
産業関係学	3 4.5%	34 51.5%	29 43.9%	0 0.0%	66 100.0%
教育文化学	5 6.5%	50 64.9%	21 27.3%	1 1.3%	77 100.0%
合計	28 7.7%	224 61.5%	103 28.3%	9 2.5%	364 100.0%

p<.001

このクロス表より、一番授業に積極的に取り組むのはメディア学科の学生、次に社会福祉学科、教育文化学科、その後社会学と産業関係学科が並ぶことが分かる。なぜこの違いが出るのか。第一志望者が最も多い社会福祉学科は授業に積極的に取り組み、最も少ない教育文化学科の授業への取り組みはどちらかといえば消極的である。よって志望順位が授業へのやる気につながるのではないか。そこで志望順位と授業への取り組み方のクロス表（表 11）を出してみたが、有意な関連はみられなかった。

表 11 志望順位と授業への取り組み度合いのクロス表

	積極的	やや積極的	やや消極的	消極的	合計
第一志望	23 9.20%	151 60.40%	70 28.00%	6 2.40%	250 100.00%
第一志望以外 (国公立志望)	4 5.10%	53 67.10%	20 25.30%	2 2.50%	79 100.00%
第一志望以外 (私立他大志望)	1 3.10%	17 53.10%	13 40.60%	1 3.10%	32 100.00%
合計	28 7.80%	221 61.20%	103 28.50%	9 2.50%	361 100.00%

p=.528

では、満足できる講義ならば、積極的に取り組む人が増えるのではないだろうか。そこで大学での授業満足度と学科との関係をもてみる。

表 12 学科と FYS 授業満足度のクロス表

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらともい えない	どちらかとい えば不満	不満	合計
社会学	19	22	25	2	2	70
	27.1%	31.4%	35.7%	2.9%	2.9%	100.0%
社会福祉学	30	33	16	3	2	84
	35.7%	39.3%	19.0%	3.6%	2.4%	100.0%
メディア学	44	16	3	4	0	67
	65.7%	23.9%	4.5%	6.0%	0.0%	100.0%
産業関係学	26	21	10	6	2	65
	40.0%	32.3%	15.4%	9.2%	3.1%	100.0%
教育文化学	19	38	17	3	1	78
	24.4%	48.7%	21.8%	3.8%	1.3%	100.0%
合計	138	130	71	18	7	364
	37.9%	35.7%	19.5%	4.9%	1.9%	100.0%

p<.001

表 13 学科とゼミ授業満足度のクロス表

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらともい えない	どちらかとい えば不満	不満	合計
社会学	33	28	9	0	0	70
	47.1%	40.0%	12.9%	0.0%	0.0%	100.0%
社会福祉学	54	24	5	0	1	84
	64.3%	28.6%	6.0%	0.0%	1.2%	100.0%
メディア学	50	10	6	0	1	67
	74.6%	14.9%	9.0%	0.0%	1.5%	100.0%
産業関係学	42	15	5	4	0	66
	63.6%	22.7%	7.6%	6.1%	0.0%	100.0%
教育文化学	43	28	6	1	0	78
	55.1%	35.9%	7.7%	1.3%	0.0%	100.0%
合計	222	105	31	5	2	365
	60.8%	28.8%	8.5%	1.4%	0.5%	100.0%

p=.006

表 14 学科と授業満足度（大学教育全般について）のクロス表

	満足	どちらかとい えば満足	どちらともい えない	どちらかとい えば不満	不満	合計
社会学	12	43	13	2	0	70
	17.1%	61.4%	18.6%	2.9%	0.0%	100.0%
社会福祉学	27	42	13	2	0	84
	32.1%	50.0%	15.5%	2.4%	0.0%	100.0%
メディア学	11	36	14	6	0	67
	16.4%	53.7%	20.9%	9.0%	0.0%	100.0%
産業関係学	23	24	14	4	1	66
	34.8%	36.4%	21.2%	6.1%	1.5%	100.0%
教育文化学	18	36	17	6	0	77
	23.4%	46.8%	22.1%	7.8%	0.0%	100.0%
合計	91	181	71	20	1	364
	25.0%	49.7%	19.5%	5.5%	0.3%	100.0%

p=.114

上の表の通り、大学で受けた教育全般では有意な関連はみられなかったが、ファースト
イヤーセミナー、3・4年次登録のゼミでは強く関連が示された。

授業満足度をみると、ファーストイヤーセミナー（以下 FYS）とゼミの両方で、メディア学科の満足度が一番高く、その次に社会福祉学科の満足度が高くなっている。その次に産業関係学科と教育文化学科が並び、満足度が一番低いのは社会学科である。

また、授業への取り組み方と FYS 授業満足度は正の関係にあり、授業への取り組み方とゼミ授業満足度も正の関係にあるため、授業への取り組み方と授業満足度はたしかに関連していると考えられる。くわえて同じ授業満足度でも、大学で受けた教育全般では授業への取り組み方との有意な関連がみられなかったため、聴講するだけの授業の満足度よりも主体的に参加する授業への満足度が取り組み方に影響を与えていることが分かる。

4.3 学生生活の活動とライフスタイル

次に、学業以外の学生生活、ライフスタイルについてみてみたい。在学中の活動について尋ねる項目と学科のクロス表をそれぞれ出して分析する。

表 15 学科と体育会・部活動のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	13 18.3%	2 2.8%	6 8.5%	50 70.4%	71 100.0%
社会福祉学	15 17.9%	4 4.8%	6 7.1%	59 70.2%	84 100.0%
メディア学	6 9.8%	2 3.3%	1 1.6%	52 85.2%	61 100.0%
産業関係学	15 23.8%	4 6.3%	2 3.2%	42 66.7%	63 100.0%
教育文化学	10 13.2%	4 5.3%	6 7.9%	56 73.7%	76 100.0%
合計	59 16.6%	16 4.5%	21 5.9%	259 73.0%	355 100.0%

p=.481

表 16 学科とサークル・同好会のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	31 45.6%	11 16.2%	9 13.2%	17 25.0%	68 100.0%
社会福祉学	25 30.5%	21 25.6%	11 13.4%	25 30.5%	82 100.0%
メディア学	23 35.9%	17 26.6%	6 9.4%	18 28.1%	64 100.0%
産業関係学	20 32.8%	10 16.4%	14 23.0%	17 27.9%	61 100.0%
教育文化学	29 36.3%	18 22.5%	8 10.0%	25 31.3%	80 100.0%
合計	128 36.1%	77 21.7%	48 13.5%	102 28.7%	355 100.0%

p=.459

上の 2 表より、部活動・サークル活動・同好会の活動には、あまり学科による違いが存在しないことが分かる。多少体育会でのメディア学科の活動が少なめだろうか。しかし、どの学科でも活発に活動が行われている。

表 17 学科と読書（小説）のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	23 32.9%	25 35.7%	15 21.4%	7 10.0%	70 100.0%
社会福祉学	11 13.1%	35 41.7%	32 38.1%	6 7.1%	84 100.0%
メディア学	22 34.9%	24 38.1%	15 23.8%	2 3.2%	63 100.0%
産業関係学	16 25.0%	29 45.3%	13 20.3%	6 9.4%	64 100.0%
教育文化学	20 25.3%	32 40.5%	19 24.1%	8 10.1%	79 100.0%
合計	92 25.6%	145 40.3%	94 26.1%	29 8.1%	360 100.0%

p=.095

表 18 学科と読書（ビジネス誌・経済誌）のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	4 5.7%	21 30.0%	26 37.1%	19 27.1%	70 100.0%
社会福祉学	2 2.4%	23 27.4%	33 39.3%	26 31.0%	84 100.0%
メディア学	7 11.1%	26 41.3%	17 27.0%	13 20.6%	63 100.0%
産業関係学	12 18.8%	17 26.6%	24 37.5%	11 17.2%	64 100.0%
教育文化学	3 3.8%	23 29.5%	38 48.7%	14 17.9%	78 100.0%
合計	28 7.8%	110 30.6%	138 38.4%	83 23.1%	359 100.0%

p=.006

上の 2 表より、小説の読書についてはメディア学科が多少多く社会福祉学科が多少少ないものの学科による差はあまりみられないが、ビジネス誌・経済誌になると違いがあることがわかる。メディア学科と産業関係学科の 2 学科の学生は残りの 3 学科に比べて、ビジネス誌・経済誌の読書の機会が多い。これは学科で学んでいる事柄によると思われる。また先ほどみた高校 3 年の頃の蔵書数と、これらの読書の関係をみてみると、ビジネス誌・経済誌については統計的に有意ではなかったが、小説の方は p=.009 であり、有意な関連がみられた。よって、小説の読書の機会は学科よりも高校生時代の蔵書数、おそらくは大学

入学以前の読書習慣の方が影響を与えていると思われる。

表 19 学科と政治討論番組視聴のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	7 10.3%	23 33.8%	22 32.4%	16 23.5%	68 100.0%
社会福祉学	5 6.0%	24 28.6%	26 31.0%	29 34.5%	84 100.0%
メディア学	7 11.1%	21 33.3%	19 30.2%	16 25.4%	63 100.0%
産業関係学	9 14.1%	21 32.8%	26 40.6%	8 12.5%	64 100.0%
教育文化学	8 10.3%	23 29.5%	32 41.0%	15 19.2%	78 100.0%
合計	36 10.1%	112 31.4%	125 35.0%	84 23.5%	357 100.0%

p=.319

上の表より、政治討論番組の視聴は、学科による違いがあまりみられなかった。多少、産業関係学科の学生の視聴が多く、社会福祉学科の学生の視聴が少なめだろう。

表 20 学科と美術館・博物館のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	10 14.3%	32 45.7%	23 32.9%	5 7.1%	70 100.0%
社会福祉学	11 13.3%	34 41.0%	21 25.3%	17 20.5%	83 100.0%
メディア学	20 31.3%	22 34.4%	12 18.8%	10 15.6%	64 100.0%
産業関係学	11 17.2%	21 32.8%	16 25.0%	16 25.0%	64 100.0%
教育文化学	8 10.1%	33 41.8%	21 26.6%	17 21.5%	79 100.0%
合計	60 16.7%	142 39.4%	93 25.8%	65 18.1%	360 100.0%

p=.028

メディア学科の人のうち 31.3 パーセントが「よく美術館・博物館を訪れた」と答えており、「ときどきした」を含めると 6 割以上がしばしば美術館・博物館を利用していたことが分かる。社会学科の人も、「よく」と「ときどき」を合わせると約 6 割が利用しており、くわえて「利用しなかった」と答えた人の数も約 7 パーセントと少ない。一方、社会福祉学科・産業関係学科・教育文化学科で「よく」「ときどき」利用した人はそれぞれ学科の約半数で、全く利用しなかった人の割合もそれぞれ 2 割以上いる。

表 21 学科と海外旅行のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	13 18.6%	33 47.1%	9 12.9%	15 21.4%	70 100.0%
社会福祉学	20 24.1%	26 31.3%	17 20.5%	20 24.1%	83 100.0%
メディア学	20 31.3%	17 26.6%	16 25.0%	11 17.2%	64 100.0%
産業関係学	15 23.4%	17 26.6%	10 15.6%	22 34.4%	64 100.0%
教育文化学	19 24.1%	25 31.6%	16 20.3%	19 24.1%	79 100.0%
合計	87 24.2%	118 32.8%	68 18.9%	87 24.2%	360 100.0%

p=.206

上の表より海外旅行については、あまり学科による差はみられない。若干、社会学科では多くの学生が海外旅行に出かけて、産業関係学科の学生は全く出かけていない人が多く、メディア学科の学生は「よく」海外旅行に出かける傾向がある。

表 22 学科とスポーツのクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	13 18.6%	28 40.0%	19 27.1%	10 14.3%	70 100.0%
社会福祉学	30 36.6%	23 28.0%	24 29.3%	5 6.1%	82 100.0%
メディア学	13 20.6%	21 33.3%	24 38.1%	5 7.9%	63 100.0%
産業関係学	30 47.6%	11 17.5%	13 20.6%	9 14.3%	63 100.0%
教育文化学	28 35.9%	23 29.5%	22 28.2%	5 6.4%	78 100.0%
合計	114 32.0%	106 29.8%	102 28.7%	34 9.6%	356 100.0%

p=.008

社会学科、メディア学科でスポーツを「よくした」「ときどきした」人がそれぞれ合わせて 5~6 割であるのに対し、社会福祉学科、産業関係学科、教育文化学科ではいずれも 65 パーセント以上の人が「よくした」あるいは「ときどきした」と答えている。教育文化学科の人にスポーツを行った人が多いのは、教員免許取得に必要な講義であるスポーツパフォーマンスのためだと思われる。しかし、どの学科でも 8 割以上の人が多少はスポーツをしていることが分かる。

表 23 学科とボランティア活動のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしな かった	しな かった	合計
社会学	12 17.1%	8 11.4%	19 27.1%	31 44.3%	70 100.0%
社会福祉学	23 27.4%	27 32.1%	26 31.0%	8 9.5%	84 100.0%
メディア学	11 17.5%	4 6.3%	10 15.9%	38 60.3%	63 100.0%
産業関係学	8 12.5%	7 10.9%	11 17.2%	38 59.4%	64 100.0%
教育文化学	19 24.4%	14 17.9%	20 25.6%	25 32.1%	78 100.0%
合計	73 20.3%	60 16.7%	86 24.0%	140 39.0%	359 100.0%

p<.001

ボランティアはやはり社会福祉学科の学生が多く行っている。過半数の学生が「よくした」あるいは「ときどきした」と答えており、「していない」学生は1割足らずである。しかし、社会福祉学科だけではなく教育文化学科でも7割近くの人がボランティア活動を行っている。続いて社会学科、メディア学科、産業関係学科の順になる。

また、この社会福祉学科・教育文化学科・社会学科・メディア学科・産業関係学科という順番から、「女子学生が多い学科ほどボランティアをしているのではないか」と思われたため、性別とボランティア活動のクロス表を出してみた。

表 24 性別とボランティア活動のクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしな かった	しな かった	合計
男性	28 18.4%	22 14.5%	31 20.4%	71 46.7%	152 100.0%
女性	44 21.7%	36 17.7%	55 27.1%	68 33.5%	203 100.0%
合計	72 20.3%	58 16.3%	86 24.2%	139 39.2%	355 100.0%

p=.089

すると表 24 の通り、たしかに女性の方が多くボランティアを行う傾向はあるものの、有意な関連はみられなかった。よってボランティア活動については、性別よりも学科の影響が強いと考えてよいだろう。

表 25 学科とインターンシップのクロス表

	よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
社会学	4 5.7%	12 17.1%	11 15.7%	43 61.4%	70 100.0%
社会福祉学	3 3.6%	3 3.6%	8 9.5%	70 83.3%	84 100.0%
メディア学	8 12.7%	9 14.3%	7 11.1%	39 61.9%	63 100.0%
産業関係学	4 6.3%	3 4.7%	14 21.9%	43 67.2%	64 100.0%
教育文化学	4 5.1%	11 13.9%	16 20.3%	48 60.8%	79 100.0%
合計	23 6.4%	38 10.6%	56 15.6%	243 67.5%	360 100.0%

p=.012

インターンシップを「よくした」人はメディア学科が圧倒的に多く、約 12 パーセントである。しかし、「よくした」「ときどきした」を合わせるとメディア学科が 27 パーセントになるのに次いで社会学も約 23 パーセントとなる。一番インターンシップ経験者が少ないのは社会福祉学科であり、「しなかった」人が 8 割以上にのぼる。一般企業よりも介護施設等への就職を目指す人が多いためだろう。就職予定の人に職種を訪ねる項目をみると、社会福祉学科の 23.5 パーセントの人が介護・福祉関係の仕事に就く予定だと答えているため、その可能性はありうるだろう。

4.4 まとめ

ここで一度、これまでみてきた学科ごとの様子を整理してみる。社会学は、高校時代の蔵書数が若干多めである。授業には最も消極的で、授業満足度も最も低い。美術館・博物館を訪れる学生がやや多めである。社会福祉学科は、第一志望の学生が最も多く、高校時代の蔵書量は若干少なめだ。授業へはかなり積極的に取り組み、授業満足度も高い。ボランティア活動には最も積極的に取り組んでいる一方で、読書量は少なめ、美術館・博物館の利用は少なめ、インターンシップへの参加も消極的である。メディア学科は授業に最も積極的に取り組み、授業満足度もぬきんでて高い。ビジネス誌・経済誌の読書機会が多めで、美術館・博物館を最もよく利用している。インターンシップにもかなり積極的である。産業関係学科は授業への取り組みが若干消極的で、授業満足度も低めである。ビジネス誌・経済誌の読書には積極的だが、美術館・博物館の利用は少なめで、ボランティア活動にはかなり消極的である。教育文化学科は第一志望の学生が少なめである。美術館・博物館の利用には消極的な学生が多いが、ボランティア活動には多くの学生が取り組んでいる。

以上から、

1. 社会学科は授業に消極的であるが、その他のことについてはどれも中程である
2. 社会福祉学科は授業とそれにかかわるボランティアにはかなり積極的な一方、それ以外のことにはかなり消極的である
3. メディア学科は何事にも積極的である
4. 産業関係学科はビジネス誌・経済誌の読書機会こそ多いものの、その他の活動は全てやや消極的といえる
5. 教育文化学科の活動は中庸なものが多いが、ボランティア活動には積極的

といった傾向が読み取れる。これをもってこの分析の結論としたい。